

平成 29 年度 決算 に 係 る
定 期 監 査 調 書

平成 30 年 4 月

病 害 虫 防 除 所

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1頁
3	組織及び業務調べ	1頁
4	職員の定員、現員調べ	2頁
5	役付職員の調べ	2頁
6	主な事業に関する調べ	3頁
7	収入証紙取扱額調べ	5頁
8	収入事務処理状況調べ	5頁
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 諸収入	
	(6) 現金の取扱状況	
9	収入未済額調べ	6頁
10	未収金回収促進のための取組状況調べ	6頁
11	不納欠損額調べ	7頁
12	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	7頁
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
13	工事請負費調べ	7頁
14	財産に関する調べ	7頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
15	財産の貸付け及び使用許可調べ	8頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
16	借受不動産明細調べ	8頁
17	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	8頁
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
18	寄附物件の受納状況調べ	9頁
19	備品の処分状況調べ	9頁
20	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	9頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
21	事業別予算執行状況調べ	9頁
○	意見、要望等	10頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項

指 摘 事 項	措 置 状 況 等
該当なし	

(2) 監査意見

監 査 意 見	処 理 状 況 等
該当なし	

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況

指 摘 事 項	措 置 て ん 末
該当なし	

3 組織及び業務調べ

課 名	係（担当）名	課 の 主 な 所 掌 事 務
病虫害防除所		<ul style="list-style-type: none"> ・ 病虫害防除所の設置及び運営に関すること。 （植物防疫法第32条に規定） ・ 病虫害発生予察調査及び予察情報の発表に関すること。 （植物防疫法第23条及び31条に規定） ・ ミバエ類等侵入警戒病虫害に対する調査事業に関する こと。（植物防疫法第21条に規定） ・ 輸出梨の検疫に関すること。

4 職員の定員、現員調べ

(平成30年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	30.4.1 現在	29.4.1 現在	30.4.1 現在	29.4.1 現在	30.4.1 現在	29.4.1 現在	30.4.1 現在	29.4.1 現在	
定員	1	1	12	12			13	13	
現員	(1) 1	(1) 1	(12) 12	(12) 12	()	()	(13) 13	(13) 13	() 内は兼務職員 兼務職員の内訳 農業試験場 1(事務) 農業試験場 6(技術) 園芸試験場 6(技術)
過不足(△)	0	0	0	0			0	0	
臨時職員									
非常勤職員									

5 役付職員の調べ

(平成30年4月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
所長	(兼) 米山 肇	年	月	本務 農業試験場長
課長補佐	(兼) 長谷川 優	3	0	本務 農業試験場 環境研究室長
課長補佐	(兼) 中田 健		0	本務 園芸試験場 環境研究室長 通算12年
課長補佐	(兼) 前田 浩一		10	本務 農業試験場

6 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財 源 内 訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
指定病害虫発生予察事業	2,717	2,713	4	0
重要病害虫発生予察事業	2,284		3	2,281
鳥取元気プロジェクト	(2)産業を元気に	元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行		
元気づくり総合戦略	(2)農林水産業	農林水産業の活力増進		

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

植物防疫法第22条に規定する指定病害虫、及び県内で問題となる重要病害虫を対象として、適切な防除対策を講じるために必要な発生予察調査を行い、被害のまん延を未然に防ぐ。

(イ) 事業の実施状況

- 1) 予察灯、フェロモントラップによる害虫の誘殺調査及び現地定点ほ場における病害虫発生状況調査を行った。
- 2) 病害虫防除所が行う発生予察を補完するため、17名の農業者を病害虫調査員として委嘱し、情報収集を行った。
- 3) 農家が適切に防除を行えるよう、調査結果と気象予報により今後の病害虫の発生時期及び発生量を予測し、農業団体等へ病害虫発生予察情報を提供した。
発生予察情報は、国の規定に基づき、その重要度や内容により、予報、注意報、警報、特殊報として提供した。
その他、フェロモントラップ等の調査結果や現場の防除指導に役立つ情報は、指導情報として提供した。

(1) 対象とした作物及び病害虫

区 分	対 象 作 物	指 定	重 要
普通作物	イネ、ムギ等3作物	18種	11種
果 樹	ナシ、ブドウ等3作物	16種	11種
野菜・花き	スイカ、ネギ等7作物	26種	30種
計		60種	52種

(指定病害虫に関する調査及び報告業務は、法定受託事務)

(2) 提供した病害虫発生予察情報 (H29.4~H30.2)

- ・ 予 報：主要病害虫の発生予測を定期的に発表(10回)
- ・ 注意報：多発生が懸念される病害虫について発表(1回)
- ・ 警 報：病害虫の大発生が予想される場合に発表(なし)
- ・ 特殊報：新規病害虫の発生や生態及び発生消長が特異な場合に発表(2回)
- ・ 指導情報：調査結果の速報及び現場指導に役立つ情報について発表(87回)

(3) ホームページでの情報提供回数 (H29.4~H30.2)

- ・ 情報更新回数58回、アクセス数6,187回

イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・ 国から提示された省力的予察調査法(イネ紋枯病)について、調査時間短縮の観点から有用性を検討した。
- ・ 果樹のクサギカメムシの越冬調査で、捕獲数が少ない傾向にあった調査地点について、調査地点の見直しを検討した結果、有望な候補地点が明らかになった。

ウ 成果及び効果

・調査対象病害虫の発生状況及び防除対策について、各関係機関に情報提供することにより、現場指導に活かされた。(詳細は以下のとおり)

病害虫名	発生状況および防除対策等
アワヨトウ (予察対象外)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内数地点(8市町村)において飼料作物を中心にアワヨトウ第1世代が多発した。 ・予察指導情報を2回発表し、一般農作物(水稲、野菜・花き等)でのアワヨトウ防除対策について、耕種農家および農業関係団体等に向けて注意喚起を行った。
イネいもち病	<ul style="list-style-type: none"> ・ストロビルリン系薬剤耐性菌の発生により、平成26年度以降の該当薬剤の使用を中止していたが、耐性菌検定(試験場)の結果および現地の病害発生状況を踏まえて、同薬剤の再使用の判断を行った。 ・同薬剤の今後の使用方針については、指導情報、県産米改良協会病害虫防除部会で情報提供を行い、平成30年度の現場指導方針の決定に活かされた。
イネ稲こうじ病 (予察対象外)	<ul style="list-style-type: none"> ・県西部の一部地域を中心にイネ稲こうじ病の多発ほ場が散見された。 ・多発要因や防除対策について、指導情報、県産米改良協会病害虫防除部会等で情報提供を行い、平成30年度の現場指導方針の決定に活かされた。
イネ縞葉枯病	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年に引き続き県中部の一部においてイネ縞葉枯病が多発した。 ・病害発生状況調査および本病を媒介するヒメトビウンカの保毒虫検定を行った。 ・調査結果等について、各関係機関に対して、県産米改良協会病害虫防除部会等で情報提供を行い、平成30年度の現場指導方針の決定に活かされた。
果樹カメムシ類	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹カメムシ類の越冬量調査結果及び予察灯の調査結果に基づいて防除の徹底を指導した結果、果実被害はナシの被害果率0%(平成0.2%)と最小限に抑えられた。
ナシ黒星病	<ul style="list-style-type: none"> ・近年多発傾向にあるナシ黒星病の越冬伝染源がやや多かったことから、開花期前及び落果期の防除の徹底を指導した結果、被害は発病葉率0.1%(平成0.2%)、発病果率0.2%(平成0.2%)と少ない傾向であった。
ネギベと病	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年に発生の多かったネギベと病は、早めの防除の徹底を指導した結果、被害は発病株率3.2%(平成5.4%)と少ない傾向であった。

エ 課題

・イネ縞葉枯病は中生品種(特にきぬむすめ)で発生しやすく、今後も発生増加が懸念されることから、引き続き県内の発生動向に注意を要する。また、本病は発病後の防除が困難なため、事前の防除対策を講じる上で、病原ウイルスを持つヒメトビウンカの割合(保毒虫率)の把握が必要となる。併せて防除対策を講じる上で、関係機関との連絡調整をこれまで以上に密に行う必要がある。

・ナシ黒斑病は、近年、少発生傾向が続いていたが、本年は収穫果実の発病が多かったことから、今後は本病が感染しやすい小袋前までの防除の徹底等について情報提供を強化する必要がある。

・これまで問題となっていなかったブロッコリー黒すす病の発生が多かったことから、今後は定期的な情報提供を行う必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
ミバエ類等侵入警戒調査事業	119	119	0	0
鳥取元気プロジェクト	(2) 産業を元気に	元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行		
元気づくり総合戦略	(2) 農林水産業	農林水産業の活力増進		
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
法定受託事務として、国内への侵入やまん延が特に警戒されているミバエ類等の侵入警戒調査を行い、これらの病害虫を早期に発見する(植物防疫法第21条及び第32条の2)。				
(イ) 事業の実施状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・チチュウカイミバエ及びコドリリングについて、県内4ヶ所でフェロモントラップによる調査を実施した。 ・平成21年に東京都のウメで初確認されたウメ輪紋ウイルスについて、全国規模の発生状況調査を実施、県内4市町のウメ、モモ等の苗木における発生状況を調査した。 ・スイカ果実汚斑細菌病について、県内12ヶ所でほ場調査を実施、疑わしい症状のあるものについては検体を採取し、抗血清による検定を実施した。 ・バラ科植物の火傷病について、県内ナシ生産ほ場25ヶ所で調査を実施した。 				
イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<ul style="list-style-type: none"> ・ウメ輪紋ウイルスについては、感染していない事が確認された果樹生産地域の調査は中止し、苗木の移動による感染の可能性がある果樹用苗生産地域、観賞用苗生産地域について調査した。 				
ウ 成果及び効果				
各対象病害虫とも、県内への侵入および発生は確認されなかった。				
エ 課題				
調査業務の効率化に向けた改善を引き続き行う必要がある。				

7 収入証紙取扱額調べ
該当なし

8 収入事務処理状況調べ
該当なし

(1) 分担金及び負担金
該当なし

(2) 使用料
該当なし

(3) 手数料
該当なし

(4) 財産収入
該当なし

(5) 諸収入
該当なし

(6) 現金の取扱状況

ア 現金取扱状況

該当なし

イ つり銭の状況

該当なし

9 収入未済額調べ

該当なし

10 未収金回収促進のための取り組み状況調べ

該当なし

1 1 不納欠損額調べ
該当なし

1 2 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金
該当なし

(2) 補助金
該当なし

(3) 交付金
該当なし

(4) 委託料
該当なし

1 3 工事請負費調べ
該当なし

1 4 財産に関する調べ

(1) 公有財産

ア 土地
該当なし

イ 建物
該当なし

ウ 山林
該当なし

エ 動産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機）
該当なし

オ 物権
該当なし

カ 無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案権等）
該当なし

キ 有価証券
該当なし

(2) 金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成30年1月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		受 入 額	払 出 額		
郵便切手及び郵便はがき	円 26,880	円 15,880	円 26,110	円 16,110	
収入印紙					
収入証紙					
タクシークーポン券					
鉄道バスプリペイドカード					
合 計	円 26,880	円 15,880	円 26,110	円 16,110	

イ タクシーチケットの受払状況

該当なし

15 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物

ア 土地

該当なし

イ 建物

該当なし

(2) 物 品

該当なし

16 借受不動産明細調べ

該当なし

17 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1) 職員住宅

ア 管理状況

該当なし

イ 異動状況

該当なし

(2) 職員駐車場

ア 管理状況

該当なし

イ 異動状況

該当なし

18 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

19 備品の処分状況調べ

該当なし

20 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

該当なし

(2) 物品の照合

該当なし

21 事業別予算執行状況調べ

目 名	肥料植物防疫費	(平成30年1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
病虫害防除所運営費	病虫害防除所の設置及び運営に要する経費	
指定病虫害発生予察事業	「6 主な事業に関する調べに記載」	
重要病虫害発生予察事業	「6 主な事業に関する調べに記載」	
ミバエ類等侵入警戒調査事業	「6 主な事業に関する調べに記載」	

意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等

・各担当者が発生予察業務と試験研究業務を兼務していることもあり、調査業務量の多い夏期を中心として業務負担が大きいです。以前から調査項目や調査方法について見直しを行い絶えず効率化を進めているが、法令及び国の指導に基づいて行う業務が多く、業務量の削減は限界に近い。

(2) 監査委員事務局に対する要望等

(例：日程、調書様式、その他監査に関する要望、改善点等)
特になし